

三井のリフォーム住生活研究所 西田 恭子

中学生の来訪を受けて

「西田所長、中学生から電話です」と声がかかった。

「えっ？」と思いつながら

電話に出ると、山口県のある中学校の生徒からだった。東京への修学旅行においてプロフェッショナルをテーマにした、班別研修先として訪問したいとの事。

研究所の仕事として、未来のリフォームプランナーへの研修、あるいは告知もあるとは思っているが、中学生にとって住宅リフォームがどれだけの関心事なのだろうか？ といぶかりながらも、遠方よりの訪問者を受け入れることにした。

後日、校長先生から学校印入りの依頼書が届いた。

「総合的な学習の時間で個人課題の追求を行い、山口では得ることの出来ない情報を収集し、課題の追求を行うことへの力添えをお願いしたい」と書かれていた。そして二枚目には、電話してきた生徒名を含む五名の名前と質問事項が、生徒自ら書いただろう文字で書かれていた。「①リフォームプランナーに求められる能力とその身の付け方は？（特にお客、仕事仲間とのコミュニケーションや

現場での応用力について)

②リフォームプランナーのやりがいと難しさとは？」

『リフォームで活躍する女性たち』(株第一プロケルス刊) 写真という本を出版している私にとって

は、「負かせておいて！」という内容だが、折角の来訪に向けて、生徒への資料を作成した。「リフォームプランナーの仕事について」とタイトルを付け、▼リフォームプランナーの役割(仕事の流れを追いながら)▼リフォームプランナーに必要な六つの条件▼リフォームの種類と事例、でまとめた。

訪れた中学生達は、全員女生徒で、大変お行儀がよく、しっかりしていた。次々と考えてきた質問を投げかけながらも、その瞳は「将来への夢と希望」という文字で埋め尽くされていた。

彼女たちは、お母さんが買ってきたという私が著した本を抱えていた。将来の職業を中学生の時から模索していることに、驚かされた。インテリアの好きな彼女とお母さんは、訪問許可が正式に出たときに、二人で手を取り合って喜んだと



いう。「本にサインを」と乞われ名前を書いたり、一緒に写真に収まったりしている間に、予定時間は大きくオーバーしていた。

そして帰る頃にはすっかり将来の方向性が決まったかのようで、その後の手紙に、「設計の能力だけでなく、コミュニケーション能力が大事だと聞いて驚いた。リフォームの面白さと難しさを知り、少しでも早く成功するリフォームが出来るように、一生懸命勉強してリフォームプランナーを目指します」と書いてあった。将来を確定してしまったようで責任の重さを感じたが、これから高校・大学受験、就職活動と越えていかなければならない山があり、目標を持つて望めるお手伝いのできたことは良かったと思っている。校長先生からも「将来設計に役立つ新たな目標ができました」と毛筆での封書が送られてきた。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。